

第4回 前方後円墳と前方後方墳



大仙陵古墳

前方後円墳は、3世紀の纏向遺跡（奈良県桜井市）で誕生した。前方後円墳は、ヤマト建国の象徴でもある。

最大の前方後円墳は大仙陵古墳（大阪府堺市）で、全長525mある。山にしか見えないその偉容から天皇権力の大きさを思い浮かべるかもしれないが、それは誤りだ。世界中の王墓は都の近郊に造られ、中央集権国家のオブジェだった。かたや前方後円墳は、地方の王（首長）も造ることができた。しかも、ヤマトの王家とほぼ同等の規模を誇る墳墓も出現した（たとえば岡山市の造山古墳。墳丘長360m）。前方後円墳は、ヤマト政権の統治システムが地方分権型だったことを今に伝えている。

なぜ、前方後円墳の形は誕生したのだろうか。もともとは周濠をともなう円墳で、外から墳墓に通じる通路を備えたことで、この形が生まれたと考えられている。

ヤマト建国の前後、前方後円墳は瀬戸内海を中心とする西側に広まったが、ほぼ同時に前方後方墳（前も後ろも四角）が東日本で盛行した。東西を二分するような状況だったが、ヤマト建国とともに、一気に前方後円墳が各地の首長に受け入れられ、共通の埋葬文化でつながるゆるやかなネットワークが完成した。東北南部まで、前方後円墳は伝播している。



関 裕二

歴史作家、武蔵野学院大学日本総合研究所のスペシャルアカデミックフェロー。著書に『古事記の正体』（新潮新書）、『アマテラスの正体』（新潮新書）など。



大仙陵古墳の所在地
大阪府堺市